

YAGI Haruo

“Image of images”

2025年6月27日 [金] ~ 11月3日 [月・祝]

横濱ゲートタワー1F/Start Gallery 4

〒220-0011 横浜市西区高島1-2-5 (とちのき通り側)

Exhibition dates: Friday, June 27, 2025 - Monday, November 3, 2025

Venue: Yokohama Gate Tower ground level / Start Gallery 4

1-2-5 Takashima, Nishi-ku, Yokohama, Kanagawa 220-0011, Japan (Tochinokidori side)

何梓羽 (カ・シウ) 「写実虚構」



《bedroom 1》(2021)
木、モーター、鉄板、チェーン、ガラス、他 | H2000 × W5000 × D2300mm



《BIG-BOY》(2023)
木、モーター、金属、プラスチックモジュール、他 | H2900 × W2200 × D2000mm



《情報伝達に不足している、だからロボット車を回そう》(2024)
ミクストメディア | W2000 × D2000 × H2400mm 写真: Zhisu Zhihen



《リアリストが追放地にて》(2025)
ミクストメディア | H2000 × W1000 × D3200mm

八木温生「絵には
絵を」

2025年6月27日 [金] ~ 11月3日 [月・祝]

横濱ゲートタワー1F/Start Gallery 2

〒220-0011 横浜市西区高島1-2-5 (とちのき通り側)

Exhibition dates: Friday, June 27, 2025 - Monday, November 3, 2025

Venue: Yokohama Gate Tower ground level / Start Gallery 2

1-2-5 Takashima, Nishi-ku, Yokohama, Kanagawa 220-0011, Japan (Tochinokidori side)

HE ZIYU

“Factual Fictions”

横浜ゲートタワーの、とちのき通り沿いにあるウィンドウギャラリー「スタートギャラリー」では、みなとみらいの「ExPLOT Studio」に制作スタジオを構える八木温生と何梓羽、二人のアーティストによる展示を開催します。都市の日常に溶け込むガラス越しのギャラリーで、日々黙々と動き続ける作品たち。通りすがりに、ぜひその姿をのぞいてみてください。

関連イベント

八木温生、何梓羽「作品の話を聞いてみよう」

ゲスト: 村田真 (美術ジャーナリスト)、八木温生、何梓羽

作家と共に Start Gallery にて作品を見学後、ふたりがスタジオを構える ExPLOT Studio へ移動 (徒歩10分程度) し、美術ジャーナリストの村田真氏とともにお話を伺います。

開催予定日: **2025年10月16日** (木) **18:30** ~ 小雨決行 参加費: 無料

予約: <https://forms.gle/PpZbUhZoQpnFMfcs7>

[予約はこちら](#)



八木温生「絵には 絵を」

YAGI Haruo “Image of images”

@ Start Gallery 2



環境に反応するシルエットとしての装置類を置くこと。イメージと、それがそこに設置されて生成されて行く果てを、時間とともに観測するために。

形として現れてくる以前に、見えないその過程を、イメージの通廊を、もし描くのだとしたら、絵のための絵を。

八木温生 (やぎはるお / YAGI Haruo)

栃木県出身。2021年武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業。2023年武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程美術専攻彫刻コース修了。主な個展に「No.21」(café シントン、小平、2024)。主なグループ展に、「SICF24 EXHIBITION 部門受賞者展」(スパイラルギャラリー、表参道、2025)、「アラライブ! 展」(BankART Station、横浜、2025)。受賞歴として2021年に「清水多嘉示賞」、2024年「SICF24 金澤韻賞」。

何梓羽 (カ・シウ) 「写実虚構」

HE ZIYU “Factual Fictions”

@ Start Gallery 4



本展は、カフカ『流刑地にて』とフィリップ・K・ディック『高い城の男』に着想を得た、2つのインスタレーションによって構成されている。虚構的なシステムが現実認識に浸透する様を描いた両作をもとに、文学と美術という二重の虚構装置を通して、「見る構造」と「見る行為そのものが構造に取り込まれる過程」を浮かび上がらせる。装置1は、釣具リールによる張力で末端のギアを動かし、遅延と不均衡をともなう回転と振動を生む。柔軟な結束バンドが棘のように見えても実際には柔らかく、「威嚇の幻影」を演出する。装置2は、廃棄された家具や工業部品による架空の塔であり、「虚構の中の虚構」として現実の輪郭を揺さぶる。

ショーケースのような透明で制限された空間の中で、構造は展示され、同時に鑑賞者もその一部として巻き込まれる。それらは秩序・認識・権力のモデルとして立ち上がり、観賞者はその境界で、自らが「内側」にいるのか「外側」にいるのかを問い続ける。

何梓羽 (カ・シウ / HE ZIYU)

中国・四川省出身、東京在住。制度や構造に取り込まれる身体感覚への違和や抵抗を起点に、彫刻とインスタレーションを通して「見ること」「動かすこと」の再構築を探究している。北海道大学大学院国際メディア研究科修了後、日本の電力製造業に勤務。のちに武蔵野美術大学彫刻学科に編入。近作は産業部品や既製品を用いた可動構造体制作。観客の操作を通じて、曖昧で不安定な知覚の境界や、制度に包摂された身体の変容を浮かび上がらせる空間を構築している。

主催: 横浜ゲートタワー管理組合 + BankART1929 協力: ExPLOT Studio

*この事業は、公益信託みなとみらい21まちづくりトラスト採択事業です。

問い合わせ: BankART1929

info@bankart1929.com

TEL 045-663-2812

Yokohama Gate Tower

<https://yokohama-gatetower.com/>

BankART1929

<https://www.bankart1929.com/>

